参考資料３

第２回部会での意見と今後の方向性

条例点検に関する意見（抜粋）	今後の方向性
＜事業者への義務規定について＞	
⑴ 取組の中身に関して、ハードルを上げて、より効果が出る内容にできないか。 今後の課題として、再生プラスチックやバイオマスプラスチックの利用などがあり、一歩踏み込んだ取組を設定してもらいたい。（浅利委員）	プラスチックごみ対策の機運醸成を図りつつ、脱プラスチックやリニューアブルの取組促進に向けて、施策の強化や条例での対応など、プランの中間見直しの議論と併せて、検討を深めたい。
＜有効な施策展開について＞	
⑵ 専門店で提供されるレジ袋は分厚く立派なものが多い。減量化に向けて、いきなり規制することは難しいが協力のお願いをするなど、コミュニケーションを取っていく必要があるのではないか。（有地委員）	レジ袋の店舗での受取の辞退率は８割から９割程度に高まっており、特定レジ袋についても有料化する動きが広がってきている。一方で市民にはプラ袋を購入する動きも見られ、実態把握につとめ、今後の対策を検討していく。
⑶ 業種別の店頭回収実施率について、コンビニやドラッグストアなど実施率が低い業種がある。自身が所属する団体で調査したところ、消費者の日常生活の動線上に回収拠点があると、ありがたいという意見が多かった。特にコンビニやドラッグストアは営業時間が長いため、回収拠点になれば排出しやすい。（有地委員）	【店頭回収の促進】 事業者が店頭回収に一層取り組めるよう、資源物のリサイクルルートの案内等を通じて、事業者の店頭回収の開始を支援するなど、本市から小売店により積極的な働きかけを行っていく。
⑷ 強化した方が良いポイントが明確に出ている。既に義務化、努力義務化しているので、積極的に取り組んでいる事業者の事例を発信するなど、ポジティブな情報の見える化が必要ではないか。 ２０２５年の大阪・関西万博の際に、関西でマイボトル利用が当たり前になることを期待している。あれもこれもではなくポイントを絞って、一気に実施率を９０％にするようなことを目指して欲しい。（崎田委員）	【マイボトル持参の推進】 大阪・関西万博が開催される２０２５年に向けて、市民の消費行動の転換を促すため、また京都観光をサステナブルに楽しんでいただけるよう、マイボトルを利用できるスポットの増加及びＰＲを強化していく。 【食べ残しの持帰りの促進】 来年度内に食べ残しの持帰りに関するガイドラインを国が作成する予定であり、こうした動きを注視しつつ、国と方向性を合わせながら取組を進めていくこととし、当面は食べ残しの持帰り対応に関する優良事例について、本市が積極的に収集・情報提供することにより、事業者の取組を支援する。
⑸ より効果的な施策展開をしていく方向で期待したい。条例のモニタリングで達成率の低い項目が浮き彫りになっているが、店頭回収やドギーバッグ、マイボトルなど、次の一手が比較的見えやすいものが多い。 多くの方が京都観光に訪れた際に具体的に見えるということを意識していくという意味では、給水スポットをいかに展開していくかということや容器の持込型による飲食物の販売など先進的な事例も出始めているので、どのようにアプローチしていくか検討いただきたい。 （酒井部会長）	